

## 2019年7月号 簿記論 つぶ問

### 2問目

#### 【問題】

吸収合併に関する，次の問に答えなさい。

(問) 以下の資料に基づいて，X社の合併後貸借対照表の空欄にあてはまる語句・金額を答えなさい。合併によって新たに生じる項目については，独立の項目として表示すること。ただし，合併後貸借対照表の空欄すべてが埋まるとは限らない。なお，合併に際して生じる損益項目については，利益剰余金に含めて計上すること。

#### 【資料】 合併に関する事項

1. X1年3月31日に，X社はY社を消滅会社として吸収合併を行った。合併直前におけるX社およびY社の貸借対照表の計上項目および計上額は，次の通りであった。

	諸資産	諸負債	資本金	利益剰余金
X社	80,000 千円	25,000 千円	40,000 千円	15,000 千円
Y社	30,000 千円	10,000 千円	15,000 千円	5,000 千円

※ 同日におけるX社の諸資産の時価は100,000千円，諸負債の時価は22,000千円であった。また，Y社の諸資産の時価は50,000千円，諸負債の時価は15,000千円であった。

3. 吸収合併における合併比率の計算は，株式市価法によって行う。企業結合日におけるX社の株価は5,000円，Y社の株価は2,500円であった。また，同日におけるX社の発行済株式総数は21,000株であり，Y社の発行済株式総数は8,000株である。

4. 当該合併に際してX社がY社の株主に交付する株式は，すべて新たに発行されたものである。合併によるX社の増加資本金額は，会社法で認められる原則額とする。

合併後貸借対照表 (単位：千円)

資 産	金 額	負債・純資産	金 額
諸 資 産	( )	諸 負 債	( )
( )	( )	資 本 金	( )
( )	( )	利 益 剰 余 金	( )
		( )	( )
	( )		( )

**【解答】**

合併後貸借対照表 (単位：千円)

資 産	金額	負債・純資産	金額
諸 資 産	(130,000)	諸 負 債	(40,000)
( )	( )	資 本 金	(60,000)
( )	( )	利 益 剰 余 金	(30,000)
		( )	( )
	(130,000)		(130,000)

**【解説】** (単位：千円)

吸収合併を前提にした、パーチェス法による会計処理を問う問題です。合併では、存続会社による株式の交付が行われるため、①資本金等が増加するか、②自己株式の交付によって処分差額が生じる点に、注意が必要です (本問は前者)。

また、本問では取得企業が X 社である旨の指示がありませんが、合併後の X 社に対する持株比率から、X 社が取得企業であることが判断できます。問題によっては、逆取得となっているケースもありますので、この点にも気を付けましょう。

1. 取得か逆取得かの判定

合併比率：Y 社株価 2.5 ÷ X 社株価 5 = 0.5

※問題文の指示より、両者の株価に基づいて、合併比率を算定します。

Y 社株主への交付株数：Y 社発行済株式総数 8,000 株 × 合併比率 0.5 = 4,000 株

合併後の X 社株主持株比率：21,000 株 ÷ (21,000 株 + 4,000 株) = 0.84

※よって、本問の吸収合併は、X 社による Y 社の取得であると判定できます。

2. 合併の会計処理

パーチェス法により、Y 社の諸資産および諸負債を時価で受け入れ、X 社が交付した株式の時価 (取得原価) との差額は負ののれん発生益となりますが、解答上は利益剰余金に含めることとなります。また、問題文の指示より、取得原価相当額については、全額を資本金として処理します。

取得原価：Y 社株主への交付株数 4,000 株 × X 社株価 5 = 20,000

負ののれん：50,000 - 15,000 - 取得原価 20,000 = 15,000

(借) 諸	資	産	50,000	(貸) 諸	負	債	15,000
					資	本	金
					利	益	剰
					余	金	15,000

解答は X 社の B/S に上記の仕訳を加味することで作成できます。